

企画展示「ほがらかに」 南部陽一郎の人生と研究

南部陽一郎博士(1921年1月18日-2015年7月5日)は「現代物理学の預言者」と評される現代物理学の巨人のひとりで、ノーベル物理学賞を受賞された偉大な科学者です。大阪市立大学南部陽一郎物理学研究所(以降、NITEP)と大阪市立科学館(以降、科学館)は南部博士の生誕100年を記念して、標題の企画展示を科学館4階で1月13日から開催します。直筆資料、歴史的書籍、写真、体験型展示などで、「現代物理学の預言者」の生涯をたどります。



写真1. 母親に抱かれる南部博士と祖母

南部博士は、素粒子物理学において「自発的対称性のやぶれ」という新概念を提唱されたことで、2008年、ノーベル物理学賞を受賞されました。科学館にはこの概念を体験する展示「磁石のテーブル」があり(写真2)、南部博士は楽しめたことがあります(写真3,4)。そして「概念は抽象的なものですから、これを分かってもらうのはなかなか難しいでしょう」とメールにお書きになりました。NITEPと科学館は「そんな

ことおっしゃいますが、多くの方々に分かっただきます！」と、「現代物理学の預言者」の予想を覆すことに挑戦します。

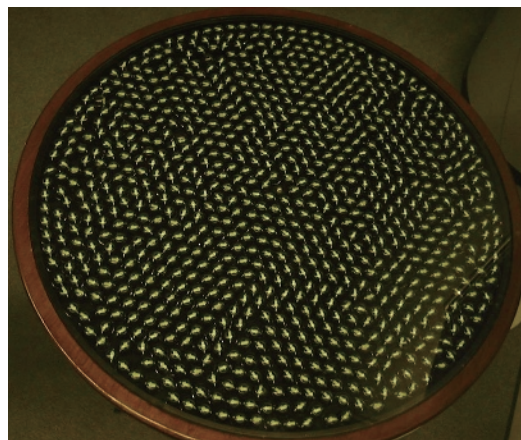


写真2.

展示「磁石のテーブル」。多数の方位磁石が魚の群れのように向きを揃えている。このように向きを揃えるのが「自発的対称性のやぶれ」である。

NITEPは「自発的対称性のやぶれ」が生まれるまでのドラマを史実から6コマ漫画にまとめました。科学館は「…天動説から地動説への自然認識の大転換に匹敵する…」と本誌で言ったことがあります(2009年3月号)。今回は、ケプラー、デカルト、ガリオ、ニュートン、ファラデー、マクスウェルなど偉人の書籍を集め、過言でないことを実感いただきたいと思っています。

その他、見学されるみなさまの想像力を掻き立て、「ほがらかに」が象徴する人間像、「南部陽一郎」が、数々の偉業も含めて、浮かび上がることを目指しました。南部博士の生誕100年を記念し、みなさまの想像力で「南部陽一郎」と語り合い、数々の偉業にも挑戦してください。

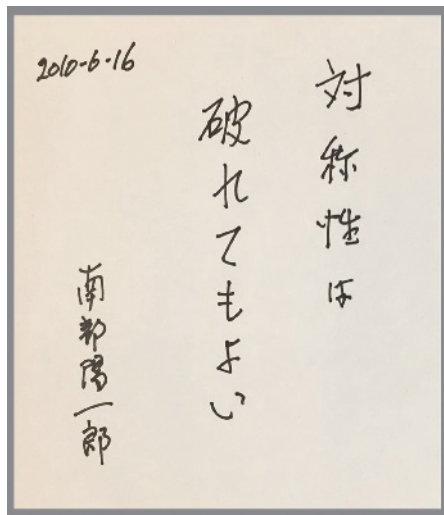


写真3.



写真4.「磁石のテーブル」で「自発的対称性のやぶれ」を楽しむ南部博士。2010年6月16日

齋藤 吉彦(科学館館長)